

「商店街連続出前寄席」のご案内

大阪市商店会総連盟との協働企画「商店街連続出前寄席」昨年開催させていただき、好評だった「出前寄席」を今年も行います。大阪市内の商店街が集まって組織されている大阪市商店会総連盟との協働企画で、商店街の空き店舗を活用したイベントへ芸人さんを派遣する連続出前寄席です。



あなたの町にもやって来る!? 商店街での出前寄席に是非、お越し下さい。スタッフ一同お待ちしております。

●現在決まっている「出前寄席」スケジュール

7月27日(月)	17:00~18:00	駒川商店街振興組合
7月28日(火)	18:00~19:30	駒川中通商店会
8月1日(土)	14:00~15:00	キララ九条商店街連合会
8月8日(土)	17:00~18:00	長吉中央商店街振興組合
9月6日(日)	17:00~18:00	新京橋商店街振興組合
9月21日(月)	16:00~17:00	天五商店会
10月12日(月)	14:30~15:30	老松通り商店会
10月25日(日)	未定	西成区商店会連盟
11月28日(土)	15:00~16:00	三津屋商店街振興組合
12月5日(土)	16:00~17:00	姫島駅前センター街

編集後記
例年より長く感じた梅雨や、流行のインフルエンザなどのせいで、今年の夏はあっという間に過ぎてしまった。-(ような気がするのは私だけでしょうか?) 暑い夏ではあったけど、高校野球は釘付けになっていた。娘が半端な遅れて行くとせがむので、しがたなく球場へ出向くことになり、思いのほか、夢中になっている自分に気がつくことになる。スゴイにのワクワク感は何だろ!? 無気味なエネルギー!! 臨場感! これも高校野球という舞台。スタンド裏はコロシアル。ライブなのである。全力で走る、球を追いかける、投げる、バットを振る! 選手がわが子と何世代ともなっていて、熱心で見るように、バックロードの選手を応援していた。負けて泣きながら土を掻き集める姿に涙でうろたえ、ライブも賑わい、育てる舞台と見守る姿。現在開催中の出前寄席、商店街にもあなたの「愛」お待ちしております。

上方演芸よもやまばなし (第4回)

大阪の魅力を発掘、再発見しようという「大阪まち歩き講座」を企画して、大阪市平野区にスポットをあてた事があります。平野区平野本町界隈は町そのものが博物館といわれていて、特に毎月第4日曜日の午後からは、個人の自宅や店が博物館として開放されます。この活動の拠点となっている全興寺(せんこうじ)の境内では、2時と3時からの2回、紙芝居が行われます。時間が近づいてくると大勢の人が集まってきて、始まる頃には人だかり。拍子木が響き紙芝居が始まると、水鉈や、ソースで描いてもらったおせんべいを食べながら「紙芝居のおっちゃん」の口演を楽しみます。私も2本の割箸で水鉈を練りながら、見入ってしまいました。



最近ではめったに見なくなった紙芝居。実ははっきとした演芸のひとつです。娯楽をささうだけでなく、生の声、手作りで温かみのある絵、みんなで共有する楽しい時間...魅力は尽きません。もっと町のあちこちで見られるようになればいいですね。全興寺(せんこうじ)へ行ってみることも、ぜひおすすめします。



松井 あゆ子

関西の上質な演芸文化のために...

NPO法人関西演芸推進協議会

~会員になって一緒に盛り上げませんか?~
関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思います。あなたの入会で、まず一歩、参加してもう一歩...と、おひとりおひとりの思いと存在がこの協議会、そして演芸会を活性化します。皆様のご入会はもとより、ご友人、お知り合いの方にもお声をかけいただけましたら幸いです。

■主目的		■会員特典	
1 定期例会の実施		1 定期例会に、会員料会で予約できる。	
2 関西演芸大賞の設立		2 関西演芸推進協議会が主催する各種交流会、勉強会に参加できる。	
3 芸人のための劇場をつくる		3 会報誌の発行(年3回)	
■会費			
入会金	個人会員 2,000円 賛助会員 20,000円		
年会金	個人会員 年間1口 3,000円 賛助会員 年間1口 30,000円		
※いずれも何口でも可也。			

イベント報告&案内
■10/5(月) 推進会議(18:30~) 於)大阪市中央公会堂 展示室
 議題:「協議会のこれから」をテーマに、出前寄席の報告、笑ライブ@商店街の日など
■10/12(月・祝) 商店街の日 於)旧精華小学校

関西演芸推進協議会 会報誌
 w a l i v e
笑ライブ
 「笑ライブ」とは、「笑」、「演」、SHOW(見せる)=LIVEという意味で、「WA」の意味する平和の「和」、ふんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名前にしました。
<http://www.walive.org> info@walive.org

第8号 2009年9月

発行/NPO法人関西演芸推進協議会 編集部
 <事務局>大阪市浪速区難波中1-10-4 千房株式会社内
 TEL.06-6633-1430 FAX.06-6633-1435
<http://www.walive.org> info@walive.org

INFOMATION

過ごしやすい季節になりました。ゆっくり旅行に行かれる方も多いのではないのでしょうか。「秋」は味覚もいいし、読書もいい、スポーツも楽しめる...と、何事もじっくりと取り組むのに向いている季節です。当協議会も、今年度の中間に差しかかって、後半のイベント企画や準備にじっくりと取り組んでおります。本誌でもご案内しております「出前寄席」は2年目の取り組みとして、去年の経験から、「より実りのあるものに」と願い、また、多くの皆様へ演芸に触れて頂く機会の創出を考えております。随時ご案内させていただきますので、皆様のご来場、お待ちしております。

CONTENTS

☆総会・難波利三先生講演(8/19)1頁
☆総会 ちんどん屋青社代表 林先生講演(7/22)2頁
☆大阪成蹊大学 山本先生「演芸で世直し」3頁
☆ワッハ夏まつり(8/22)3頁
☆上方演芸よもやまばなし4頁
☆「出前寄席」案内及び報告4頁
☆協議会入会のご案内4頁

総会・難波利三先生講演 2009.6.19 於)スイスホテル南海大阪(35階シェルブルー)



難波利三先生

直木賞受賞作品「てんのじ村」に思う 芸人として、人として...

直木賞には6回目のチャレンジで見事受賞となった著書「てんのじ村」をテーマに、作品に取り込まれるまでのエピソードや、取材する過程での、「てんのじ村」への思いや、そこで生活し、芸を磨いていた何人かの芸人を見るうちに知ることになった「ひとつの芸にこだわり、「この芸しかないんだ」という執念のようなものを持って生きていた」芸人魂に触れられ、てんのじ村という場所での人情と賞しくも人肌の温もりを感じる豊かな情景をお話いただきました。また、大阪府が検討中の「ワッハ上方」の通天閣への移転構想にも触れられ、演芸発祥の地に舞台を移すことで、当時の面影や歴史が薄れつつある「てんのじ村」の歴史を振り返り、伝承していくきっかけとなり、「演芸の地」が再び活かされるのではないかと期待をされているとのことでした。

「ひとつの仕事、ひとつの芸を 人生の全幅をかけて磨く。」

(てんのじ村というところで育てられた芸人さんは、自分の持ち芸を「この芸しかないんだ」と気概を持って生きていたということに人間としての生き方そのものを学ばせてもらいました。)と話される難波利三氏。我々演芸文化の継承をサポートする活動を行って行くにあたって、改めて原点を見つめ直す機会になりました。芸ひとつを磨くということ、これは、他の仕事、生き方においても同じなんだということを知り、ひとつの目標に向かって継続し、向上させていく意欲を持つことが大切である...。かつては、多くの芸人さんが共に暮らし、芸を育てて来た「てんのじ村」。今は往時のようすを伺わせるものは僅かとなりましたが、難波先生の著書「てんのじ村」をはじめ、当時のことを知る芸人さんなどから聞いたことを語り継いでいくことも関西の演芸文化の継承と発展につながるのではないかと思います。

師匠から育てられる家族的な温もりのようなものを商店街に期待。

協議会相談役の藤本義一氏からもご挨拶をいただき、「この会が、若手芸人をどのような方向に導いて行くかが課題。商店街での出前寄席といったスタイルにはお客様に育ててもらう場として、「師匠に育てられるぬくもりのようなもの」を期待したい。」と当会にとって大変意味のあるお言葉を頂きました。

「よりよき鑑賞者を育てる」を重点テーマに演芸文化の機会をご提供。

小野幸親会長による挨拶で開会した平成21年度の通常総会。議案としましては、平成20年度の事業報告及び収支決算報告に併せて、事業の実施状況の報告がありました。昨年度より始めた「出前寄席(大阪市商店会総連盟との協働)」は演芸文化の普及振興と商店街の活性化を目指し、今年度も実施することが発表され、広く多くの鑑賞者の方と多様な演芸との触れあいの機会を創出することで、共に文化の伝承、発展に努めて行くという方向性を確認しました。



藤本義一先生



小野幸親会長

“笑いは大阪のエネルギー”

ワッハ上方に於いて開催された「ワッハ上方夏まつり」に「笑らいふ」として当協議会も公演を共催いたしました。baceよしもとの若手漫才師、キッズダンスチームの演技ではフレッシュなエネルギーを、また三原佐知子さんによる浪曲では、人情物語に涙をさそわれました。また、OSK日本歌劇団の艶やかな歌と踊り、ザ・ラッキーの親子での曲芸とバラエティーに富んだ演目。最後は桂福団治師匠の落語でたっぷり3時間、夏の笑いの舞台をにぎやかに飾りました。



▲「笑い」には自信があります。観客の皆様にもご参加頂きました。



▲ザ・ラッキーは親子で曲芸を楽しませてくれました。



▲三原佐知子さん



▲桂福団治師匠



▲OSK日本歌劇団も夏まつりらしく浴衣でしっとり



▲キッズダンスチームも元気にDANCING!!



▲写会は「健康笑い塾」の中井宏次さんと事務局長・石井サト子さん



▲ソメイヨシノ



▲女と男



▲赤



▲演奏のみでも大満足…受講者は素晴らしい演奏に拍手喝采。

「ちんどん屋」ポイント・ピックアップ

- 街頭広告業は大阪が発祥の地。
- ちんどん屋の太鼓はアメリカのドラムセットがヒントになった。
- 旅役者やバンドマンにはない喜びをちんどん屋に見出す。“自分がスター!!”
- 宣伝活動として、人情の喜びに触れる人助けとして…そのココロは…

人と人、高いと顧客、つながりが生まれるのが「ちんどん屋」としてのもてなし、宣伝活動

その2.経営の原点＝「私も名経営者になれるんや!」の巻 山本 憲司 (大阪成蹊大学現代経営情報学部教授)

- ④ それはよくあることだよ。私心があるからだよ。目先の売り上げや利益を欲しがったり、自分の気に入ったイスマンを重要な地位につけたり、要するに自分の都合を優先して、世のため・人のため・お客様大事・社員大事といったことをおろそかにしているからだよ。会社だけでなくあらゆる組織にあるんだよ。
- ⑤ そうか。しかも、最近のように変化が早くてグローバルな競争にさらされる時代は、次から次に新たな問題が発生するので、会社経営は大変やね。
- ⑥ 問題が多いから大変や、というのは分かるけど、問題が多いからこそ面白い、困難が人を育てるんだ、と考える人でないと「名経営者」にならないね。ピンチはチャンスとよく言うけれどそういうことなんや。
- ⑦ それでは、「名経営者」になるための基本を教えてください。
- ⑧ 一番大事なのは、物をつくる前に人をつくるということや。事業は人なり。人として成長しない人をもってして事業は成功しないんだよ。物をつくることはもちろん大事だが、その大事な物をつくるには正しい考え方をもちた人が必要なんだよ。こうした心の持ち方次第で結果は天と地の差が出るんだ。
- ⑨ そうすると人を育てる基本は、「経営」とは何か、という使命を強くもつことやろね。、
- ⑩ そのとおり。「経営」というものをはっきりと共有して力強く事業をしていくことや、そこから人は自然に育っていくのや、これが結局は人を育てる一番の近道だよ。そのように社長をはじめ部門長は部下と共に奮闘して会社全体として成果を高めていくんだよ。自分の知恵・才覚だけで支配しようとするのはいけないことやね。
- ⑪ 衆知を集める、これが決め手や、ということなんやねえ。しかしそれ相当難しいのと違う?
- ⑫ 衆知を集める対象は社内の人に限らんよ。求める心さえあれば知恵を寄せてくれる人はどこにでもいるよ。自己中心で物を見ると難しくなるねえ。素直な気持ちで世間やお得意様に溶け込んで接していくと意外と案外しやすいもんだよ。「名経営者」になるための基本、今日はこれくらいにしておこうか。
- ⑬ ありがとう。もっとも「経営」の勉強したくなった。“好きやねん勉強”や。

「世は情け、人生は永遠の花道なり」

「ちんどんや」。そのルーツは明治時代、大阪の街頭広告業としてはじまった「ちんどんや」の宣伝活動。商いと人(お客様)をつなぐ役割、それが「ちんどんや」の仕事である。林先生の講演の内容を要約すれば、そういうことなのだが、ご自身が「ちんどんや」さんになるまでのエピソードをお父様の営んでおられた金物周屋のことや、「大阪」の営業マンのこと、そして大学時代を関西(京都)で過ごされた時の話などを交えながら、飾らず、ユニークにお話になられ、会場は約70名の受講者の笑いの渦。

また、話の合間に演奏を交え、「ちんどんや」の生演奏を聴かせてくださいました。(これがまた聴かせるんです、うまいんです、感動なんです…)あつという間の2時間、広告宣伝業のルーツを知るということにおいても、実に勉強(いや井・興?)になる講演会でした。



▲賑々と語り、即興で演じる林先生。

笑顔で世直し! けんちゃん先生の「経営」漫才

- けんちゃん(以下 ③) さあ、虎ちゃん、けんちゃん先生と2回目の「経営」漫才をはじめようか。
- 虎ちゃん(以下 ⑦) よろしくお願ひします。
- ⑧ さて、虎ちゃん、「経営」とは何か、前回の復習しようか。
- ⑨ まかしとして、「経営」とは、人の役に立つようにがんばって自分も成長すること、要は、喜ばれて喜ぶことや。
- ⑩ 虎ちゃん凄いや! そのとおりや、これは個人だけでなく、会社・役所・家庭、あるいは教育・福祉・芸術・飲食、その他人間のあらゆる営みに共通して当てはまることや。
- ⑪ 前回は「お母さんは名経営者!」というテーマで勉強したけれど、今日はどんなテーマですか?
- ⑫ 今日は「会社」の話を「私も名経営者になれるんや!」というテーマでいこうかな。社長をはじめ部門長や社員がそれぞれの担当分野で「名経営者」になるための条件を考えよう。
- ⑬ 早速やけれど、「名経営者」とは、お客様に喜ばれる物やサービスづくりで繁栄している会社の経営者やねえ。
- ⑭ そのとおり、つまり「名経営者」は、「世のため人のためになることは絶対に諦めず、決して放棄する」、「損は許されない」、これらを基本精神として実践をあげているんだよ。
- ⑮ 分かりやすいねえ。そやけど、実際にはつまづいている会社が多そうやなあ。売れるものが作れないから無理な押し込み販売したり、大層に値引きしたり、さらには売れ残り品の賞味期限を付け替えたり、不良材料を使ってコストを下げたり、実にいろいろとマスコミをにぎわしている会社が多いなあ。
- ⑯ なぜつまづくのか、その原因は簡単や、根本はトップの社長自身の責任や。お客様が喜ぶ商品の開発力を会社の中に育てていないこと、同時に自分自身にその根本責任があることを明確に自覚していない場合が多いんだよ。
- ⑰ ナゼそれに気づかないんやろねえ。

けんちゃん先生:山本憲司 大阪市立大学商学部、松下電器産業(現、パナソニック)34年勤務、京都産業大学経営学部を経て、現在大阪成蹊大学現代経営情報学部教授。山本ゼミの中に「千原・御手」に活躍部があって、千原の経営を現場主義で本気で勉強している。

虎ちゃん:けんちゃん先生の門下生 大阪を愛し、熱烈な阪神タイガースファン。